

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 定刻の時刻となりましたので、ただいまより平成26年7月の市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付させていただいております次第のとおり、まず6項目の事業発表から行わせていただきます。ご質問につきましては、この事業発表の内容についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答後にフリーの質疑応答へと進行したいと思っております。終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしく申し上げます。

【市長】

梅雨に入りましたけれども、何か天候不順といいますか、私どもの地域は余り今のところは降っておりません。いつときに1時間に57ミリでしたか、降ったことがございましたけれども、やはり地球の温暖化等の影響が出ておるのかなということを感じております。ただ7月に入るとかなり降るといようなお話も出ていますので、しっかり水防訓練も行ってありますが対応していきたい、このように思っております。

それでは、座って、発表項目について説明をさせていただきます。

まず第1番目、敦賀市職員採用候補者の後期試験の実施でございます。お手元に配付のとおり実施をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

次に、公用車の売却であります。これも記載してございますけれども、トヨタのセルシオ、結構年式も古うございますし距離も走っていますけれども、運転手さん非常に丁寧に整備をしておりますから、かなりいい車だというふうに思います。どなたでも入札参加できますので、御希望の方がありましたらぜひ参加をしていただきたい。これはまた私ども敦賀市の財源になりますので、なるべく高く買っていただければありがたい、このように思っております。

次に、若狭さとうみハイウェイ全線開通記念シールでありますけれども、今私ども張っております、また記者のお手元にも行っているというふうに思いますけれども、このシールを張って開通を記念するとともに、いろいろ周知をしていきたい、このように思っております。

また、結構シールをつくりました。8万枚をつくっております。10組を1シートとして8,000シート作成をいたしました。例えば、お土産物屋さんのパッケージにちょっと張っていただくということがあったり、また、市役所とか観光協会の輸送用の封筒、パンフレットなどにも添付をしたい、このように思っております。配布後でありますけれども、大体在庫がなくなり次第終了する予定でありますけれども、基本的に8月31日ごろまで実施をしたいなというふうに思っております。シールを希望する事業者の方は、敦賀商工会議所のほうにお申し込みをいただくようになっております。

以上です。

3点目、ハイウェイウォーキングin敦賀でございますけれども、これはいろんな方からご要望も実はいただいておまして、私ども中日本と相談をしてまいりまして、この日時で決定をいたしました。7月13日の日曜日でありまして、余り天気が雨風が強いとなると中止になりますけれども、雨天では決行する予定でございます。9時から15時で結構時間とってございますので、その時間の中に往復10キロ、ゆっくりと景色を楽しみながら歩いていただきたい、このように思います。

一応記念品等々も用意をございまして、ここに記載のとおりでありますけれども、先着1,500名の皆さん方にはお茶または記念品の粗品を進呈いたしますし、折り返し地点まで完歩された先着500名の皆さん方には記念品を贈呈したい、このように思っております。恐らくかなりの人が見えるというふうに思いますので、市役所等々の臨時的駐車場でシャトルバスで送っていきたい。場所は、エネ研の近くのスマートインターを予定しておりますところから入っていただいて、衣掛大橋のところまで行く往復10キロでございます。ホームページを通じていろいろ広報しますが、中止のときもそのような形で告知をしていきたいというふうに思っております。どなたでも参加できます。ただ小学生以下の方

は保護者の皆さん方の同伴、引率が必要でございますので、よろしくお願ひします。参加費は無料でございます。よろしくお願ひします。

パンフレットのほうも、この近辺では張りましたけれども、また近隣の地域に明日あたりに張る予定でございます。

続きまして、杉原サバイバー、レオ・メラメドさんの来敦でございます。

この方は、杉原千畝さんの発給した命のビザを持って敦賀港に上陸した方でございます。6年前に私ちょうどシカゴのほうに訪問し、メラメドさんとお会いをしてまいりました。そのときから機会がありましたらぜひ一度敦賀のほうにお越しをというご依頼をしておりましたけれども、そのことがようやく明日実現することになりまして、大変うれしく思っているところでございます。今回、奥様も一緒に来ていただけるわけでございますし、明日10時に表敬訪問から始まりまして、約半日間ではございますけれども敦賀に滞在いただいで当時の思い出なども語っていただきたい、このように思っているところでございます。

また、来敦記念ということで、ムゼウムのほうで特別記念の展示も予定をいたしておるところでございます。多くの皆さん方に、またムゼウムに来ていただけたらありがたい、このように思っております。

次に、フェリー船内での人道の港PR映像でございます。これからフェリーもシーズンを迎えまして、多くの観光客の皆さん方も乗船をされるというふうに向っております。そこで、苫小牧便等々のフェリーにおきまして人道の港及び観光スポットなども紹介しまして敦賀をPRしたい、このように思っているところでございます。放映期間は来年の3月31日までを予定いたしておるところであります。

私のほうからは以上です。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました6項目についてからご質問を受けさせていただきますと思います。

まず、幹事社様のほうからご質問どうぞ。

【記者】 事務的なところなんです、シールの使い道なんです、市役所でも郵送用封筒やパンフレットなどということですが、具体的にはどういったようなものを想定しているのでしょうか。

【産業経済部長】 具体的には、いろんな発送文書ですね。例えばイベントなどの発送文書など、市外に発送する文書に貼っていきたくと思います。商工会議所のほうで商品とかにも張っていただくような協力もお願いする予定でございます。

【記者】 人道の港のPR映像をフェリーで流しているということなんですけれども、いつから流しているんですか。

【産業経済部長】 お答えいたします。5月から始めております。いろんな映像もそうなんですけれども、あとパンフレットとかアンケートも同時に行っておりまして、その準備が全部整いましたので、今回、メラメドさんの来日に合わせましてお知らせをさせていただきました。

【記者】 最近、人道の港というふうなPRが多いと思うんですけれども、市としても物流港というだけじゃなくて、そういう観光誘客に港を生かしたいというふうな気持ちのあらわれなんですか。

【市長】 そのとおりです。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。それでは、各社お伺ひいたします。発表事業項目につきまして、ご質問のある方はお伺ひいたします。—よろしいでしょうか。

それでは、フリーの質疑応答のほうへ移らせていただきます。これも幹事社様のほうから何かありましたらお伺ひいたします。

【記者】 市長、例えば最近、規制委のほうに要望に行かれたりだとか、その前にも経産省のほうに、ああいった原発長期停止に伴う経済対策の要望とか精力的にされたと思うんですが、その際の手応えをそれぞれご自身どのように感じていらっしゃるのかというのを伺えますでしょうか。

【市長】 まず経産省のほうでありますけれども、ご承知のとおり経産省によっていろん

な調査をしていただきまして、そのいろんなデータなどもお示しをいただいておりますので、経産省としてもそのことはよく理解をしていただいておりますというふうに感じました。

私どもも全原協を通じていろんな固定資産税の問題等々、また解体撤去まで等々、これは従前から要望していることではありますが、やはり具体的な形でこのように原子力発電所が全て停止をしているという状況の中で、立地地域がそれぞれいろんな苦勞をいたしております。そのことを承知していただいておりますので、私どもの要望が全て聞き入れられるかということそれはちょっと難しいですけれども、基本的には少し前向きにいろいろ検討していただいておりますのではないかなというふうに期待感を持って訪問することができましたし、返答のほうも、全て具体的な形の返答はございませんでしたけれども、少し今までよりは前向きな形で対応していただいているというふうに感じたところであります。

昨日は、規制庁のほうに出向きまして、今回でいろんな調査、そしてまた私ども従前から要望しておりました第三者機関、またいろんな有識者の方を入れて議論をしてほしいということは何度も申し入れをいたしましたけれども、結局それは実現をいたしていません。せんだっていろんな有識者会議の中での話、そしてそこに、もちろん会社側の人間もそうではありますが、全く違う第三者を入れていろんな議論をとということでお話ししておりましたけれども、それも全くかなっていない。そして、そういうような状況の中で何か結論めいたものを出そうとしているように感じましたので、それでは恐らく私どもも当然でありますけれども、いろんなところで理解できない人が多いというふうに思います。私ども基本的には、行った、調べたこと、結論に至るまでのいろんな経緯などをそれなりの人が来て説明すべきだということで、これは前回申し入れたときもお話をしたんですけども、そのことについても再度申し入れをするとともに、やはり地元に対して科学的な根拠に基づいたいろんな結果などを早く説明をいただきたい。そして、そういうものを経てから結論を、また第三者のいろんな意見の先生方もいらっしゃいますので、そういう皆さん方を交えた議論をして結論を出すように期待をいたしております。

【記者】 原発関連で2つお願いします。

もんじゅが保安検査で不備というのが相次いでおりまして、市長も議会の提案理由説明のところで改革が進んでいないと思わざるを得ないとか、そういうふうなことを言われていたと思うんですけども、今のもんじゅの状況をどういうふうに思っていて、規制庁の人は、今山を登っている最中で、頂上に着くことが改革が終わったときだと言っていたんですけども、市長から見て今どういう状況で、山でいったら何合目ぐらいにあるというふうな印象を持たれているんでしょうか。

【市長】 確かに本部長を立て、またいろんな形で改革は進めてきておりますけれども、やはりまだ道半ばと言わざるを得ません。そういう中で、山に例えるということちょっとわかりませんが、頂上が最終的な改革終了であれば、まだ7合目か8合目ぐらいでおろおろしているのかなという印象は受けます。これが9合目、それか9合目5分ぐらいまで来ておればいいんですけども、まだ少し。でもスタート時点をふもととすれば、そこまでは進んできておりますので、これからの改革の進捗に期待をしたい、このように思っております。

【記者】 あともう1点、滋賀県の知事選が今告示されてやっている最中で、3人の候補者が討論というか自分の主義主張を唱えているんですけども、隣の福井県にある原発に対して脱原発というのも選挙の一つの争点になっているんですけども、敦賀市も高島市と長浜市と接していて滋賀県に接していますが、そういうふうに隣の県が福井県の脱原発について選挙の争点にしているということをお考えですか。

【市長】 原子力問題というのは、まず立地地域があつての政策でございますから、高島市さん、長浜市さんは準立地に近い、そういうところもございますから、関心を持つことはいいことかもしれません。

ただ、知事選となりますと滋賀県全体の話でございますし、例えば国政とはまた違いますので、それを一つの争点にするというのはちょっといかがなものかなという気はいたします。

【記者】 前の東京都知事選でも似たようなことを言われていたんですけども、隣で身

近だから余計に何か違うふうに思うとか、どういうふうに、同じように捉えているのか、隣で身近だから違うふうに捉えているのか、どういうふうに思われていますか。

【市長】 確かに東京の場合は、東京電力ということでありまして、福島もそう遠くもなく近くもなくという場所柄でありますし、やはり東京都知事選となりますと首都でありますし、またちょっと他の県とはニュアンスが違うかなというところもあります。東京都知事選においても、やはりそういうことを争点にしたというのは、先ほど申し上げましたとおり非常に違和感を覚えておりましたが、確かに滋賀県も近いということは理解できますし、何かあったりしたときにはしっかり連携をとって私どもいきたいというふうに思っておりますが、知事選の中でそれを争点にしていくというのはいかがなものかというふうに思っているところであります。

【記者】 違和感があるということですか。

【市長】 はい。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

それでは、各社ご質問ありましたらお伺いいたしたいと思っております。挙手をお願いいたします。

【記者】 原子力の関係なんですけれども、昨年5月に敦賀原発がアウトというか、そういうのを宣告されたときに、市長は原電は廃炉専門の会社にするのもできるんじゃないかというようなお話をされていたと記憶しておるんですけれども、今はどうでしょうか。どういうお考え、所感をお持ちでしょうか。

【市長】 廃炉専門ということではなく、廃炉分野も一つの会社の事業として取り入れていく。これからどんどんそういう廃炉をしなくてはならん炉というのは年を追うごとに増えてきますし、特に中国を初め諸外国のほうでも原子力発電所はこれからどんどん建設されていきます。これはやはりしっかりとした廃炉をどのような国であってもやっていかななくてはならん。そういうものの技術をしっかりと確立した部門も、日本原電というのは原子力に特化した一つの会社でありますから、そういう意味ではゆりかごから墓場までというような会社のいろいろな取り組みができれば、当然廃炉というものも視野に入れていければなというふうに思っておりますし、ただ、今の発電部門をやめて廃炉専門ということは思っておりませんし、決してまだ3・4号機についても全く、未定ではあります中止になったわけでもございませんし、私どもとすれば、これだけ化石燃料がふえている現状の中で、基本的に国がエネルギー政策の中での割合、これはあくまでも重要なベースロード電源であるというふうに位置づけられておりますけれども、何年まではこの割合でというそのあたりをしっかりと決めていきませんと、例えば今いろんな発電所ありますけれども、いろいろ古いやつもあればまだ新しいやつもあるし、これから計画中もありますので、そういうことが決まってくると、私はおのずと3・4号機というものも必要な炉になってくるというふうに確信をいたしております。

そういう意味で、そういう分野とまた廃炉の分野もやっていくことについては、日本原電はそれだけのノウハウを私は持っているというふうに思いますので、そういう観点から廃炉分野についても部門を持って取り組んでいただけたらなというふうには思っておりますが、これはあくまでも会社の方針でございまして、私どもがうんぬん言うことではないというふうに認識はいたしております。

【記者】 ちょっと別の話なんですけれども、昨日、日朝協議開かれまして、拉致被害者、特定失踪者の話が進められているんですけれども、敦賀市内にはお1人、山下貢さんという方が縄間のほうで平成元年にいなくなったということで、仮に日朝協議が進んで北朝鮮側が山下貢さんを帰国させるというようなことになった場合、敦賀市としての受け入れ体制とか支援体制どのように進めていくとか、今現在でも何か話があれば、そういうのを教えていただきたいなと思っております。

【市長】 まだ現時点では、そういうような具体的なお話は聞いておりませんが、山下さんも仮に拉致をされて北朝鮮でも生きておられれば、それにこしたことはないというふうに思いますし、また日朝協議によってそういう問題が解決をしてお帰りになれば、当然敦賀市として、小浜市の地村さんの例もございまして、小浜市の例を参考にさせていただいてしっかりご支援はしたい、このように思っております。

ただ、今のところ特定の被害者までは至っておりませんので、具体的にはそういうお話もございませんし、私どもとしてもその 〇〇 はまだ考えていないところでございます。できれば生きていらっしやれば非常にいいなというふうに思いますし、願っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

【記者】 ちょっと話が行ったり来たりして申しわけないんですけども、昨日の規制庁の申し入れに関してなんですけれども、意見書の中でも議論が尽くされていないというようなことを主張されていたかと思うんですが、次回以降の会合の進め方ですとかについて森本次長からは何かコメントというのはありましたか。

【市長】 昨日の話の中では、具体的に何日に次の会合を開いてということはございませんでした。私どもは、あくまでも結論を急ぐんじゃなくて、やはり有識者を入れていく。そのやりとりの中で、ちょっと冒頭にもお話ししたんですけども、このままでいくと5人の先生方が何か、私どもの主張の一つというのは、会社側も当然学者を立てていろいろあって疑問を投げかけていますし、有識者の皆さん方は有識者の皆さん方のある程度結論めいたものを持っていらっしやる。そのほかに、裁判官的な方を立てて、これももちろん専門家であります。立てて議論をしなさい、してほしいということをお願いしておりますけれども、そういうものを避けて逃げるということは何か不都合な真実がそこに隠されているんじゃないかなというふうに私は疑問を持ちまして、そのこともはっきり言ってまいりましたけれども、そういうふうなところで、もっとオープンに堂々と議論をして技術的、そういうものに基づいた結論が出れば、どなたも納得することがあれば、破産帯か活断層かが白黒ははっきりします。そのあたり白黒ははっきりしないままに、ただ思いだけで可能性を否定できないからこうだというような結論を出すということは決して許されない、このように思っています。

【記者】 前回の会合では、終わりに、最後のほうに、次回会合では評価書の修正に入るというふうな話が出ていたかと思うんですけども、そうすると、昨日の話合いの結果でも一応次回からはそういう作業に入るというような感じなんですか。

【市長】 森本次長の話の中では、私どもの言っていることに対して、うなずきながらも粛々と前へ進めていきたいというような思いは私は感じましたので、それでは困るというようなことだけは申してきたつもりなんです。なかなか規制庁としての動きというのは、三条機関であるという思いもあるんでしょうか、どなたに言われようが自分たちの道を自分で行くというような雰囲気はやはり感じたところでございます。

やはり私ども一地方の声だけではなかなかそれは難しいのかなと。県議会のほうでもいろいろ声は上げていただいておりますけれども、最終的には国会でしっかり議論していくしかないのかなというふうに思いますので、またそういう国会の先生方に対する私どもの動き、そういうものもとっていかなくてはならんというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

【記者】 また2つあります。

舞鶴若狭自動車道が20日に全線開通するというので、市長、先日、福井、滋賀、京都の3県の活用協議会で、危機感が7割、期待感が3割というふうに言われていたと思うんですけども、改めて期待と意気込み、あと課題も教えてください。

【市長】 期待とうれしさということでは当然ありますし、ただ、敦賀という場所柄ですね。今までは、例えば北陸方面から来た方は必ず敦賀でおいて小浜方面へ走って行きました。嫌でも敦賀市内を通ったわけですね。また西のほうから来られる方は、小浜まで来られて、下道へおいて敦賀まで向かって、またそこから高速を利用されていた経緯があります。小浜市もそうなんですけれども、敦賀市もちょうど端っこですから、逆に言えば小浜方面へ行く方は敦賀でおらずに直接舞若線で向こうへ行くわけで、その分スルーしてしまいます。やはりおいてしまうと、もちろん目的地がありますから急ぐ車もありますけれども、横にちょっとスタンドがあった、コンビニがあった、あそこで言えばさかな街があったということで、何万台も、月にねかすと何百万台ですから、それだけの車の中の1%、0.何%でもいいですけども、そういう人がおることによっての経済効果というのは必ずあったというふうに認識をいたしております。その部分がなくなる分を、今まで来れなかった地域から来てもらわなくてはならん。そういう意味で、私どもは一つ危機感という

よりも、しっかりやろうというそういう思いが7割と受けとめていただいたら結構だというふうに思います。

そういう意味で、しっかりPRする。いろんなイベントをする。そして、敦賀へ来ていただく、敦賀で一度おりにいただくというものをしっかりやりませんと、冒頭言いましたように通過をされてしまう一つの地域になってしまうということは非常に危機感だというふうに捉えて、あのような話をさせていただきました。

でも、やり方一つによって、これは一つの大きなチャンスでもありますので、しっかりと官民一体となって取り組めば必ず大きな経済効果も生み出せる可能性のあるものですので、そのあたりを行政のみならず民の皆さん方ともいろいろ知恵を出し合いながら頑張っていきたい、このように思っております。100%は頑張ろうという気持ちであります。

【記者】 今まで来られなかった地域というのは、どの辺の地域を想定されていますか。

【市長】 そうですね。四国でも橋ができてから、こちらから日帰りで行くようになりまし、それも可能ですから、それがもっと離れたところ、広島でありましょうし、またもっとそれより西ということも考えられるというふうに思います。

そういう意味で、本来は宿泊を兼ねて来ていただくのが一番いいものですから、そのシーズン、シーズンに合わせたこちらの海の幸、いろんなおいしいものをPRして来ていただく。そういうようなことで、PR範囲はかなり広がってくるというふうに思いますけれども、それは広範囲にはなりません、しっかりとPR活動を通じて、今まで余り来なかった地域の皆さん方に来ていただけるように努力したいなというふうに思います。

【記者】 今のお話は、主に観光誘致という観点かと思うんですけれども、産業振興、今度、敦賀港に新しい産業団地を計画しているということで、産業団地への影響というか、産業振興についてはどういうふうに思われていますか。

【市長】 これも非常に産業振興については物流の拠点、そして敦賀港、また産業団地ということ、しっかりと連携をとっていきますが、そういう意味では今まで来なかった地域のいろんな産業、またその品物を例えば敦賀港を使って運ぶというようなことになっても、ある程度距離が延びても時間が短縮しますので非常に有効だということ。これもしっかりとPRをしていきたいというふうに思います。

それとネットワークができておりますので、例えば名神のほうで何かあって渋滞する、また通行どめが発生した場合でも、舞若道をうまく迂回できるということでありまして、敦賀はちょうどどちらも利用できる場所、立地になりますから、非常にそういう面では地の利がいいというふうに思っています。そういうあたりをしっかりとPRしながら多くの企業に働きかけをして、今度の物流団地等にも来ていただけるように、また物流団地以外にも敦賀市内、いろんな場所もありますし、また私ども企業誘致に際する特典なども団地以外でも適用させていただいておりますから、そういうものもしっかりPRして多くの企業にも来ていただく。また、物の集まる場所として活用が期待できるというふうに思っております。

【記者】 先ほどの観光に話に戻ってしまうんですけれども、敦賀は敦賀ジャンクションはありますけれども、おりにところがなくて、敦賀南スマートインターが2年後開通するというので、それまでの素通りに対する対策とかはどういうふうに。

【市長】 大体先ほどお話ししたようなことではありますけれども、確かに新しい舞若道のインターというのはありません。そういうところで南スマートインターが一つの敦賀の出入り口になりますが、ご承知のとおり非常にジャンクションとインターと近いですね、うちの場合は。ちょっと近過ぎるぐらいで、ぐるっと回ってくるとすぐインターになっていますので、そのあたりは心配しなくてもいい分野もありますけれども、やはり基本的にはたくさんの方々に敦賀でおりにいただく。要するに目的を持って来れば必ずあります。目的を持って、敦賀に行こう、ここへ行こうという気持ちがある人は必ずありますので、そういうところで敦賀に行こうという気持ちを持っていただく人をたくさんつくりたい、このように思います。

【記者】 あと、話は変わりまして、神楽町の原子力機構の旧PR館、アクアトムについてなんですけれども、塚本副市長、この1カ月どういうふうに進んだかどうか。

【副市長】 皆さんの前で申し上げることはなかなかできないんですけれども、事務方と

してかなりお互いが歩み寄れないかという協議は実は進めております。ただ、そういう中で一定の合意には達していませんので、今ここで申し上げることはできませんけれども、水面下で事務方として一生懸命やっているという状況でございます。

【記者】 原子力機構が何らかの案を出していて、それについて話し合っているということですか。

【副市長】 所有権は機構にあるわけですから、機構さんにすれば、県とか市とか文科省といろんな形の中で4者で協議していたわけですから、そういう複数の方々と接触しながらいろいろ考えているということだというふうに僕は理解しています。

【記者】 当初だったら去年の8月末で一定の結論を出すというはずだったと思うんですけども、10カ月たっていますけれども、あと2カ月以内にとか、どういうふうな時間のスケジュール、考えていくんですか。

【副市長】 おっしゃるように、最初のころはそういうタイムスケジュールのもとにやっただけなんですけれども、それはいろんな条件の中でそういうときまでに決めなければならない事情があったんだと思いますけれども、それからおっしゃるとおり少し時間たっています。ただでそういうようなことが容認されているということは、そういうふうな状況になってきているのかなというふうに思いますけれども。

【記者】 容認というのは、敦賀市が容認.....。

【副市長】 いや、いわゆる夏ごろまでに決めなければならないことが、いまだにおいてもみんながしょうがない状況の中で容認しているということは、周りがそういう環境にあるということじゃないのかなというふうに思います。

【記者】 先月の記者会見のときには、まだ全然進んでなくて、一定の批判は、4者とも批判を受け入れるのは免れないみたいなことを言われていたと思うんですけども、ずっと市街地空洞化している中で、なかなか決められない敦賀市としての責任というのはどういうふうに思われていますか。

【副市長】 これは敦賀市だけの責任じゃなくて、4者がそれだけまだ十分合意形成ができるまでに至っていないわけですから、それで努力が足りないんじゃないかと言われると、その批判は甘んじて受けるというふうに申し上げたんです。そういう状況は1カ月かかっても、もし批判があるとすれば、それは甘んじて受けなければならないだろうというふうに思っています。

【記者】 4者ということなので、敦賀市だけではなく、福井県と原子力機構と文部科学省それぞれが批判を受けなければならないと。

【副市長】 おっしゃるとおりです。

【記者】 わかりました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

【記者】 1点だけ伺いたいののが、先ほどの北朝鮮の話に関して、政府のほうで判断することではあるんですけども、今、制裁が続いている北朝鮮籍の入港ですとか、例えば北朝鮮の方の国外への移動とかというのがもし解除されて、敦賀港へもしそういった関連の船が入るとかとなった場合、何か市のほうで対応を考えられたりしているんですか。

【市長】 例えばそういうことになって敦賀港に入港となると、港湾管理者は県ですから、県のほうでまずどうされるかなということを思います。ただ、昔は北朝鮮の船が入って、カニとかエビとか実はいっぱい入っていました。そういうものがまた経済活動に結びついていたことも事実ですし、敦賀はご承知のとおり在日の方も、要するに北朝鮮出身の方も結構いらっしゃいます。そういう意味では、これは国同士なのでわかりませんが、ほとんど正常化してお互い仲よくなって交流が進めば、港まちとすればいいことであります。ただ向こうの国の体制などもちょっと私どもは理解できないところもありますので、これは国としてちゃんとした道筋を立ててやっていただかせないと、なかなか地方だけで、ああしてほしい、こうしてほしいということは言えないなというふうに思います。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして7月の市長定例記者会見を終了させていただきます。

ご協力ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございます。

午後2時8分 終了